

びの概要

環境生命科学専修

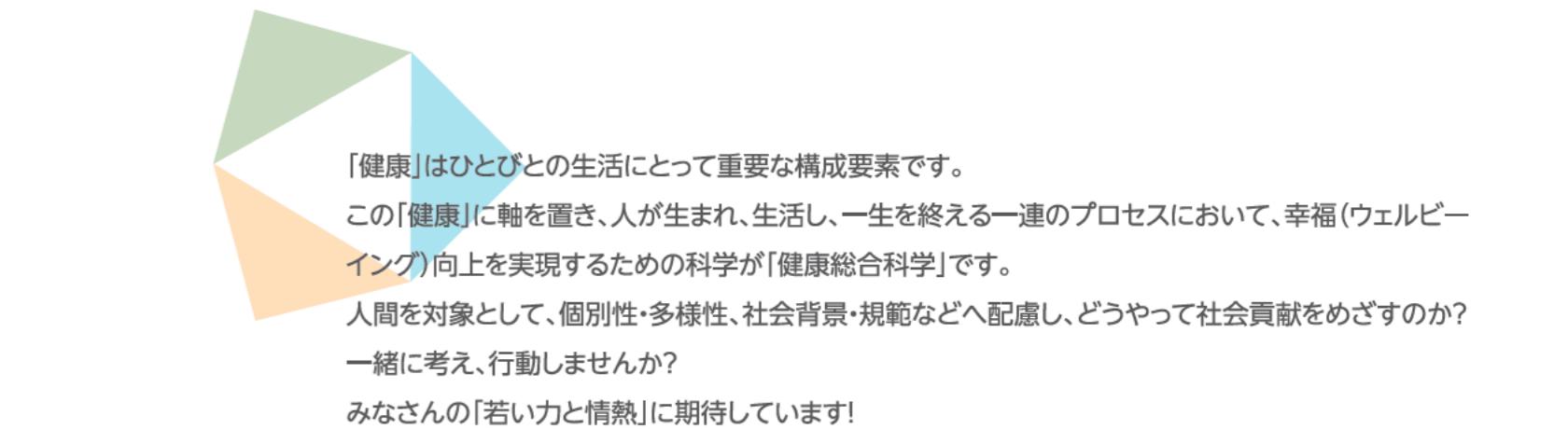
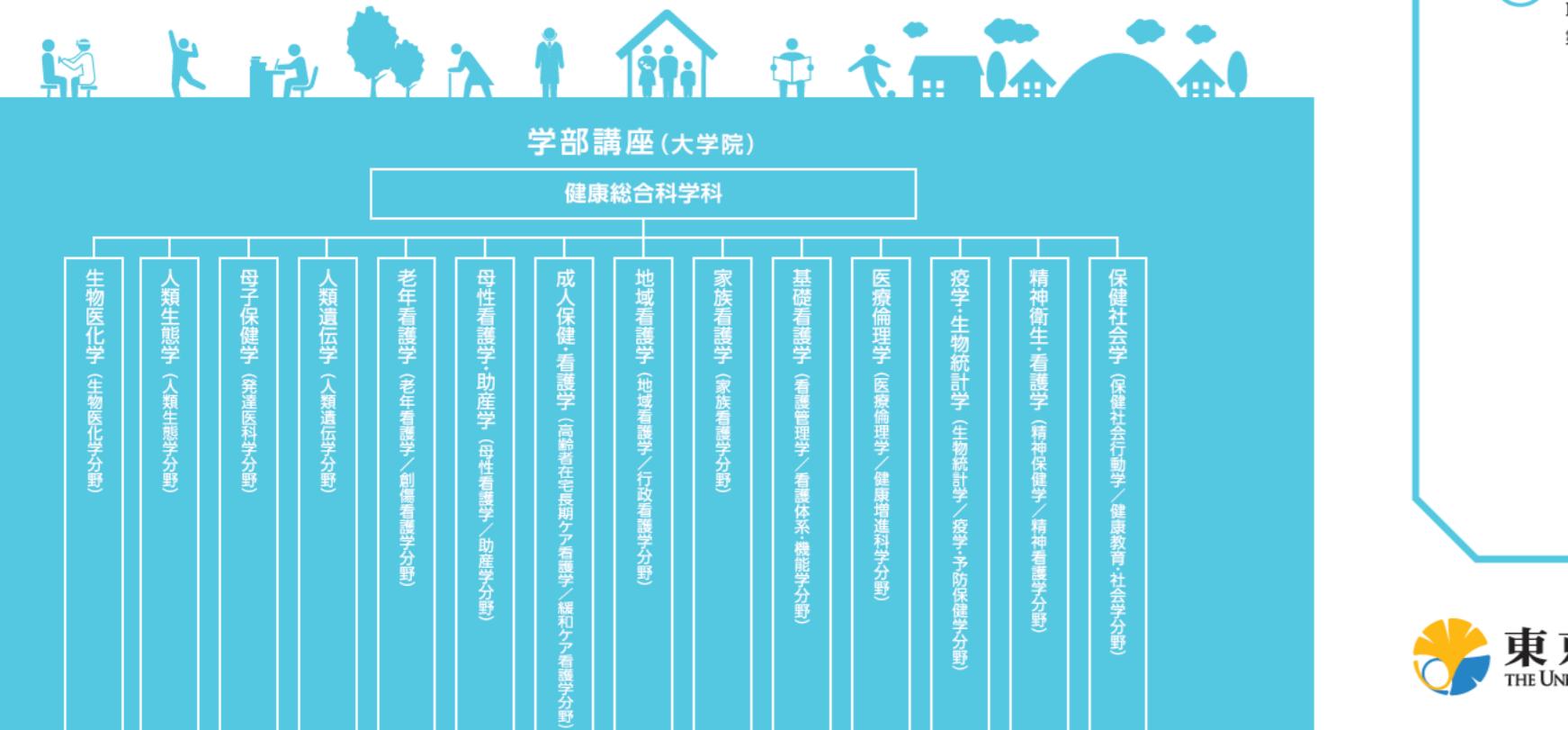
本学でも数少ない「人間の生物学」を学べる専修です。個体としてのヒトの健康事象を把握するために不可欠な人間生物学、その個体を構成要素とする臓器・細胞・分子レベルにおける生命科学、ならびに人間の集団が活動する場となる人間・生態系に関する環境学の修得を目指します。分子から集団に至る全ての階層において、人間（ヒト）には他の生物にはない様々な特徴があり、それらを修得することは健康以外の多くの分野にとっても有用であることは間違いありません。科目を担当する多くの教室が国際的研究を進めており、国際的雰囲気に触れやすい環境でもあります。

公共健康科学專修

人を取り巻く社会的な環境を踏まえて、1) 人の健康課題を抽出し、2) 健康を計量的・質的に把握して、行動・医療保健サービス・社会制度・規範との関連を解明し、3) 科学的方法論に基づいて疾病予防や治療・健康増進を進めることを通じて、人々の健康と幸福に貢献できる実務者および研究者を養成します。具体的には、医学・疫学研究のデザインやデータ分析の方法論、治療や予防の効果検証手法、疾病の社会的負担や保健医療政策の分析手法、健康の社会・行動的要因の測定・分析方法、調査の設計と実施、そしてデータに基づく対策や提言の立案・実践手法等を学びます。これらを応用し、グローバル化する社会で卒業生がマスターする力として、連する問題に対する教育を実現します。

看護科学專修

看護科学とは、生命科学を基盤に、対象者をミクロおよびマクロの視点で捉え、それらを取り巻く社会環境との関連で科学し実践する学問です。具体的には、生命科学実習あるいは健康科学調査実習、マネジメント能力養成のための実習および国際保健の現場における実習を通して広く健康に必要な実践力を備えます。その上で、人の健康増進・維持・回復を目的とした場での実習を行います。このように看護科学を基礎科学から臨床技術まで構造化した学問体系を教授し、従来にない新しい看護科学の発展に寄与します。さらに、グローバル化を促進しつつ日本の優れた看護学を世界に発信します。



カリキュラム

詳しい講義日程はシラバスを確認してください。

科目種別	単位数
共通必修科目	41(43) ^{*1,2}
環境生命科学専修必修科目	11
公共健康科学専修必修科目	12
看護学専修必修科目	53
選択科目	36 ^{*3}

2年後半

この時期は健康総合科学の基礎知識を幅広く学び、毎週4日は本郷キャンパスで学習していきます。環境生命・公共健康・看護科学を並行して学習しながら、11月に3専修の一つを選んで登録します。

3年前半

後期課程カリキュラムの最初のこの時期は、基礎をより深く学習していきます。医学・看護学・生物学・社会学・統計学を中心に知識を深め、必須実習科目も増えています。

3年後半

より幅広い知識と専門的な知識を学習するこの時期は、一人ひとりの進路が明確になる時期です。看護科学専修では臨地実習を開始します。

4年前半

いよいよ卒業論文の研究が始まる時期です。研究は、各講座に所属してテーマを選び、取り組みます。環境生命科学専修・公共健康科学専修は、卒業論文が必修になり、看護科学専修も多数が履修します。

4年後半

卒業論文作成や看護学実習で毎日が充実する時期です。看護科学専修の学生は、2月に看護師国家試験を受験します。

卒業研究風景

卒業論文提出・発表

健康総合科学科の全教員および学生の前で卒論を発表します。

誕生から終末期までのさまざまな健康レベルの人々が安全・安楽な生活を送ることできるような支援方法論や、看護を効果的に提供する方法論の解明・開発を行う研究者育成を主な目的とした大学院です。修士課程は看護学講座（保健師・助産師教育コースも設置されています）から、博士課程は健康科学講座と看護学講座から構成されます。

<http://hsn.m.u-tokyo.ac.jp/>

大学院

健康科学・看護学専攻

生物医学と社会医学的なアプローチをあわせ持つことにより、環境・遺伝・感染症・保健計画などの分野で国際的に貢献できる人材の育成を目的にした大学院です。世界保健機関や諸外国の大学・研究機関との国際的な研究ネットワークを有し、修士・博士を通じて英語のみで学位が取得できる教育・研究環境を整えているのが特徴です。

<http://www.sih.m.u-tokyo.ac.jp/sph/>

国際保健学専攻

国民や地域住民、患者も含めた広範な人々の健康の維持・増進、回復及び生活の質（quality of life）の改善において、指導的な役割を果す公衆衛生分野の高度専門職業人を養成することを目的とする専門職大学院です。本課程の修了者には、公衆衛生学修士（専門職）一英語名：Master of Public Health (MPH) が授与されます。

<http://www.m.u-tokyo.ac.jp/sph/>

科目紹介

必修科目



…環境生命科学専修



…公共健康科学専修



…看護科学専修

生命科学実習I・II laboratory method : ラボメソ

2週間、各研究室を回り実験手法を習います。医療を支える研究を体験し、学生同士が学習した内容について意見交換を行い、レクチャーをし合うなど実験・実習を通じ交流を深めることができます。

人類遺伝学 I、II^{*}

※ II は環境生命科学専修のみ必修



…環境



…公



…看

健康科学調査実習



…環境



…公



…看

母性看護学／母性看護学実習



…環境



…公



…看

基礎看護学 I／看護支援技術論／看護管理学



…環境



…公



…看

家族と健康／小児看護学実習 I、II



…環境



…公

…看

成人看護学／急性期看護学実習／慢性期看護学実習

…環境

…公

…看

科目紹介

基礎生命科学^{*}／生命科学・ゲノム学 I、II^{*}／栄養学



…環境



…公



…看

※1 文系必修
※2 II のみ環境生命科学専修、公共健康科学専修のみ必修

生命・医療倫理 I

※環境

…環境

…公

…看

発生発達学／母子保健学

※環境

…環境

…公

…看

疫学／生物統計学

※環境

…環境

…公

…看

健康教育^{*}（職域・地域）／社会と健康

※環境

…環境

…公

…看

生物統計学実習

※環境

…環境

…公

…看

医療人類学

※環境

…環境

…公

…看

地域看護学^{*}／在宅看護論／在宅看護学実習

※環境

…環境

…公

…看

老年看護学／老年看護学実習

※環境

…環境

…公

…看

看護職の力を最大限に活用して、社会に役立てるために、必要な政策や制度を検討し、その実現に向けて活動しています。

人々の健康を守ることは、困難ですが取り組む価値の高いテーマです。

地域に住んでいる人々の健康状態・生活の様子を把握すると同時に、人口密度や疾患の発生率等の統計資料を分析し、これらの情報を統合して地域の健康課題を分析する方法を学びます。実習では、実際に自宅で療養する方のご自宅を訪問し、そこで看護技術を学びます。

看護職の力を最大限に活用して、社会に役立てるために、必要な政策や制度を検討し、その実現に向けて活動しています。